



郷土史

ていね

第 95 号

平成 27 年 11 月 11 日
手稲郷土史研究会会報

第 113 回(平成 27 年 10 月 14 日)定例会の研究発表要旨

稲積農場のよもやま話

澤口 由美子 氏



手稲山が初冠雪を記録して、いよいよ冬の到来も 真近かになってきましたね。

♪「雲湧く手稲を仰ぎ見て 鈴蘭香る軽川の流りに鍛えしこの体 力を示すは今日なるぞ。 フレー赤、フレー白、フレフレフレー」♪

この歌は、手稲中央小学校の運動会の応援歌です。

父との最期の時に問うと、「お父さんもこの歌だったよ…」と懐かしそうに言っていましたので、軽川尋常小学校の頃からこの歌が歌われていたようです。

この歌にあるように 真っ白い雲が湧く手稲山を日々に仰ぎ見て、初夏には鈴蘭の群生する軽川の流れ…、そのままのイメージが重なります。

「軽川稲積農場」は、軽川、中の川、三樽別川に囲まれた中洲で、明治 35 年(1902) 年に小樽の商人稲積豊次郎が農場を開いたことに由来しています。

私の祖母の稲積たつは、稲積豊次郎の兄の姪にあたり、高岡高等女学校を卒業した明治 41 年の春、龍田安二郎と婚礼を挙げ北陸富山から日本海を北上する北前船で移住してきました。

当時本州が内地、北海道は外地と呼ばれていましたから、2 週間余りの船旅ではっきりと軽川の地に骨を埋める覚悟をしたと思われます。

農場の管理事務所兼住宅は、平屋の木造家屋で、外壁はたった一枚の板壁、屋根は桎ぶきながら、間口一間の玄関は横に長く、上り^{かまち} 框の板が全て取り外せたので、下駄、草履、短靴など上手に仕舞っていました。

玄関を入り突き当りに 6 畳の広間風の部屋があり、そこを中心に山側に 6 畳の畳の部屋が二つ、その反対に 6 畳の畳の居間があり、奥が黒い板張りの台所でした。その奥に男女別々の便所、内風呂には、ヒノキの桶が使われていました。

山側の 6 畳の部屋は、真ん中の襖を取り外すと、12 畳の広さとなり、床の間もあつたので幾人かの子ども達の結納はこの部屋で行われたようです。

家具と言えるものは、仏壇、祖母の鏡台、二竿の和箆筒、丸い卓袱台に勉強机が二つ、ねじで巻く柱時計くらいのもので座布団と布団は、二つの押し入れにびっちり入っていました。

家屋と棟続きに物置、鶏小屋。別棟に澱粉工場があったようです。

水は、ポンプで汲み上げていた記憶があります。

玄関前の庭には、イチイの木、祖父母の部屋の窓からは、雪柳と 躑躅^{つづじ}が見える小さな庭があり、春には 蔭^{ふき}の 臺^{とう}が顔を出し、菖蒲^{しょうぶ}を切っては湯船に浮かべ菖蒲湯を楽しんでいました。



ワラビやササノコなど山菜採りの名人もいて、塩蔵して冬場の食料の足しにもしていたようです。住居の南側には、梨、梅、栗、さくらんぼ、葡萄、グースベリーなどの木が植えられ、耕地では豆類を作っていました。

それらの古木は、今もそのまま実をつけてくれています。

また、年の暮には外で餅つきをし、何枚もの平板に丸められた餅が並べられ、正月には百人一首…と賑やかで幸せな時間が流れていました。

「辛抱する木に花が咲く…」を信条にした祖先からの尊いご縁に導かれ百余年、軽川稲積農場縁の土地を守り抜いて 今日二十四軒手稲通り沿いに千坪ほどの土地を所有しております。

三男五女を授かった祖父母ですが、現在「稲積家」を名乗る者は、私の兄「稲積忍」、その息子一人の二人だけとなってしまいました。

時の流れは、様々なものを容赦なく変えていきます。

明治4年に現在の三樽別川傍に置かれた通行屋跡は、たった一枚のプレートでその所在を伝えるのみとなりました。

そこから小樽方面に10mほど行ったところにポプラの大木がありましたが、20年以上前に伐採され今は跡形もありません。

二十四軒手稲通りは、明治から大正、昭和の初めまで軽川街道と呼ばれ、国道5号線が開通するまで、札幌を結ぶ交通の要所として大動脈の役目を果たしてきました。

手稲山の裾野に幾本かの道があり、そのどの道も父と兄と3人で歩いた思い出の道です。

「軽川」をこよなく愛し、愛してやまなかつた父稲積敏夫。

稲積家の三男で大正15年生まれでしたが、海軍に志願して行き「明日人間魚雷に乗る使命を受けた」矢先に終戦となり、祖父母の待つ家に帰ってきました。

「軽川街道」の両側には、お湯屋と呼ばれる風呂屋が二軒、床屋に雑貨屋に映画館に写真館、酒屋、薬屋、ハモニカ長屋…、どの佇まいも、どの家も、どの人も愛してやまなかつた父稲積敏夫。

戦争に行ったまま帰ってこなければ、兄も私もこの世に存在することもなく、この土地も守りきることはできなかつたでしょう。

「軽川稲積農場」縁の土地を守り抜いて、次代に残すことに生涯を捧げた父でした。

幸いにも、昭和61年にJR「稲積公園駅」と名のつく駅が出来、「稲積小学校」「稲積中学校」など開校され、照れながらも自分の人生の役割を果たし終えたような満足感と、ちょっといいとこどりですが、人生のご褒美をいただいたような気持ちで、冥途のみやげとして祖父母の下に持って行けたのではないかと思っております。

私の小さい頃、父はたった一冊の絵本『イソップ物語』を何度も読んでくれました。

「欲しがりません、勝つまでは…」の精神を叩き込まれていた父は、「すっぱい葡萄」の話…「あの葡萄はすっぱいから採れなくてよかった…」的な負け惜しみが案外得意でした。

質素ながら「教育は財産」と考え、兄と私に等しく教育の機会を与えてくれました。

兄稲積忍は、現在海上保安庁に勤務しております。鹿児島を振り出しに、宮城、愛知、静岡、東京などを巡り、第28次南極観測隊（夏隊）として南極にも向かいました。

私たちの命の旅を次の代に繋げていきたいと考えています。

父稲積敏夫が歩いた祖父母との約束の道を兄稲積忍と歩いていきたいと思えます。

いつしか幻となってしまった「軽川街道」には、今もいにしえと同じ風が吹き渡っています。

同じ青空の下、百年を生きた幻のポプラの大木が今も風にさわさわ鳴っているように思えます。

いつの日にか、父が愛してやまなかつた「軽川街道」に「学びの庭」を築けたらと思っています。

昨年に引き続き、お話をさせていただきありがとうございました。

心から感謝しております。

澤口由美子（筆名 稲積由美子）

分科会報告

パネル展「手稲の郷土資料展」

終わる

10月7～8日、JR手稲駅自由通路「あいくる」において、「手稲の歴史資料展」というパネル展を行いました。手稲の小学校に保管されている手稲の郷土資料を写真で紹介するものでした。60歳以上の方々には特に興味をもって見ていただいたようです。そのときのアンケート結果を右に紹介します。



11月分科会カレンダー

「手稲の歴史資料展」アンケート集計

資料部

設 問	選 択 肢	件数
I. 年齢	小学生	0
	中学生	0
	高校生	2
	大学生	1
	60歳未満	5
	60歳以上	4
	II. 在籍小学校 (または卒業小学校)の展示写真は？	ある
ない		7
子供が卒業		1
無回答		1
無回答		1
III. 居住地	手稲区内	8
	札幌市内	2
	札幌市外	1
	無回答	1
IV. 手稲の歴史に関心は？	ある	10
	ない	0
	どちらとも言えない	1
	無回答	1
V. 感想	『 西宮の沢小学校もあって驚いた(手稲区・高校生)。	
	『 角巻・まきストーブ・かや・ラジオ…、どれも幼少時代の懐かしいものです。何十年ぶりに見て家族を思い出した。(60歳以上)	
	『 すばらしいものばかりだった。これからも大切に保管してほしい。とくに、昔の化石に興味をもった。(札幌市外・60歳未満)	
	『 沢山の展示写真に魅入ってしまった。(手稲区外・高校生)	
	『 雪かきが懐かしかった。昔の物を大事にする精神を忘れずに持ち続けてほしい。(手稲区・60歳以上)	
	『 また、資料展示を行ってほしい。(手稲区・60歳以上)	
	『 いろいろなテーマで郷土資料展・郷土歴史展を連続シリーズ的にやってほしい。(手稲区・60歳未満)	
	『 「海のもの」の資料があったことに驚いた。(手稲区・60歳未満)	
	『 アカウミガメ・アンモナイト・ストーブ・びく・はこ・かごなど、いろいろなものがあり、嬉しかった。(手稲区・大学生)	
	『 懐かしいものがある、思い出す。(手稲区・60歳未満)	
	『 懐かしいものがある、思い出す。(手稲区・60歳未満)	

次回の予定

次回(12月9日)は、尾池純一氏「山口スイカ・大浜みやこカボチャ」の講演を予定しております。

会場は、視聴覚室です。

分科会名	日 程	予 定	場 所
文芸サークル・ 開拓使研究部	11月25日	映画鑑賞会 (「新しい風 若き日の依田勉三」)(自由参加)	富丘西宮の沢会館
手稲石の会			
資料部	11月26日	パネル展の企画について (「史跡案内板巡り(仮称)」)	茂内会長宅

会員の広場

多彩な話題連発、22氏登場

手稲コミセンの「手稲人」講座



手稲コミュニティーセンターを会場に平成25年5月スタートした「手稲人が語る手稲人のための手稲の話」は、10月20日の例会（講師・三国勲さん＝手稲山紀行・パラダイスヒュッテ建設の経緯＝）で30回になりました。聴講者は毎回、30～50人と盛況が続き、登場した講師は22人で、複数回登場した講師は7人になりました。

この間の聴講者は1,037人（事務局調べ）になりました。

講座は教科書のような一定のルールがあるわけではなく、得意の分野を独自の切り口で解説するところが人気の的となっているようです。

お遍路姿で登場（後藤崇和さん）したり、長尺年表の披露（佐藤至さん）やキリマンジャロ登頂体験（斎藤隆夫さん）といったスケールの大きなもの、さらには増毛山駅通殺人事件（鈴木清士さん）といった猟奇事件の発表もありました。

また、郷土史研例会でも未発表の軽石軌道の経営実態の史料の発掘（沖田紘昭さん）や小説の舞台となった手稲の数々（小田真二さん）といった異色の発表もありました。

例会は、来年6月まで続く予定です。郷土史研では聞いたこともないテーマも含まれていますので、ぜひ、聴講いただくようご案内いたします。

今後の日程、演題、講師は別表のとおりです。
(いち 記)

平成27年度「手稲人が語る手稲の話」講座の開催予定

番号	開催日時	曜日	演題	講師（所在地）
24	平成27年4月21日	火	開拓期の手稲の養蚕	演笠 静子(前田在住)
25	平成27年5月19日	火	増毛山駅通殺人事件	鈴木 清士(増毛在住)
26	平成27年6月23日	火	お遍路で見えてきたもの	後藤 崇和(豊後在住)
27	平成27年7月21日	火	北海道への移住、我が家のルーツ	菅原 直(前田在住)
28	平成27年8月18日	火	「なぜ第一期工事で終わったのか」 ～軽石軌道に秘められたロマン～	沖田 紘昭(前田在住)
28	平成27年9月15日	火	平和の滝とその周辺	土谷 聖史(西野在住)
30	平成27年10月20日	火	手稲山紀行、パラダイスヒュッテ建設の経緯	三国 勲(札幌在住)
31	平成27年11月17日	火	曾祖父はなぜ北海道に渡ったのか	條野 雄一(八軒在住)
32	平成27年12月15日	火	支えられて45年、楽しく歩いて健康づくり	木村 博(前田在住)
33	平成28年1月19日	火	北海道空襲と札幌	菊地 慶一(豊後在住)
34	平成28年2月16日	火	手稲の歴史を創った人たち	野村 武雄(富丘在住)
35	平成28年3月15日	火	稲穂の記憶	一ノ宮博昭(札幌在住)
36	平成28年4月19日	火	竜馬一族の北海道移住	川崎 吉充(前田在住)
37	平成28年5月17日	火	南アフリカものがたり	若松 幹男(西野在住)
38	平成28年6月21日	火	手稲本町唯一の料亭「みどり亭」の盛衰	一ノ宮博昭(札幌在住)

手稲歴史資料展示コーナー運営委員会情報

手稲歴史資料情報室（1階）の歴史資料コーナーは「手稲歴史資料館」設立の第一歩に繋がるものと位置づけ、展示コーナーの企画・運営について特別の体制をとり、手稲区役所地域振興課と協議を重ねた結果、平成27年12月16日から開設できることとなりました。場所は手稲区役所情報資料室（1階）の一部を使用することになります。

当初の展示は四半期ごとにテーマを分けて第一期は（冬）前田農場と東宮駐れん記碑、第二期（春）手稲鉦山栄枯盛衰、第三期（夏）山口運河今昔物語、第四期（秋）手稲の温泉史の順で準備中です。12月16日の展示コーナー開設に当たりパネル展も実施します（区役所1階ロビー）、又広く区民にPRするために「広報さっぽろ」（2015年12月発行）にも掲載されます。